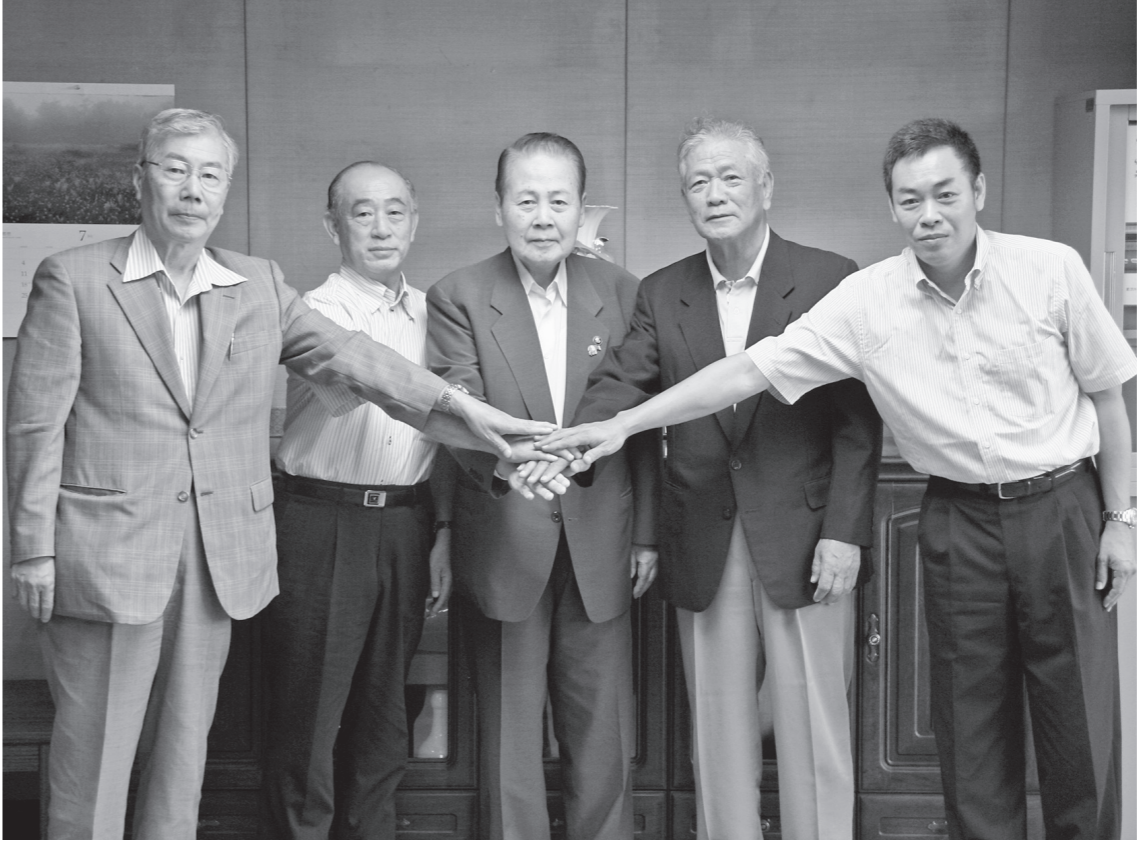


# 長門市にふさわしい市民協働を

## 第3期地域審議会、市長へ答申



▲左から中嶋会長（油谷）、岡嶋会長（日置）、南野市長、沓野会長（長門）、金子副会長（三隅）

7月7日、長門、三隅、日置、油谷の第3期の各地域審議会から、南野市長へ「市民協働と地域活性化の取り組みについて」の答申が行われました。

### 地域審議会とは

地域審議会は、合併により行政区域が拡大し、住民の意見が新市の施策に反映されにくくなる懸念への対応として、平成27年3月までの間、合併前の市町の区域を単位として設置された機関です。

### 今回の答申について

今期の地域審議会では、平成21年8月に市長から、「市民協働と地域活性化の取り組みについて」諮問を受け、2年間の審議の後、今回の答申に至りました。市では、この答申を受け、「長門市にふさわしい市民協働の仕

組みづくりと推進策」を早急に検討します。まず、市民・団体を対象に、市民協働についての講演会を開催し、協働への意識や市民活動への参加の状況などについての市民アンケートを行います。その後、市民協働の条例化と体制づくりを進めます。

### 各地域審議会の答申

問題・課題

#### 長門地域審議会

住民意識の変化と地域力の減退

◎交流・ふれあいによるコミュニケーションの復活

・子供会、PTA、地域イベント、集落・班でのまつりや会合などを通じた連携と交流の推進  
・若者を巻き込むための「きっかけ」と「声掛け」  
・若者の意向や意見を取り入れた若者を受け入れるサポート体制の整備

「まずは自分たちで、できないところを行政に」  
・住民と消防団との連携強化や住民からの積極的な企画・提案

### イベント開催における役割

◎交流をめざしたイベント開催  
・「おもてなし」による一大イベントの開催・開催  
・協働による仙崎みずぎ界隈の「買っ」、「食べる」、「見る」(散策) 1日体験の仕掛けづくり

・イベント主催団体相互の情報交換や交流による連携の強化とイベントの継続  
・各団体を取りまとめるしくみの構築と情報の発信、閲覧できる場の整備  
・市主催イベントの協働化

### 馴染みの薄い協働意識

◎市政参画プロジェクトの構築  
・地域住民により組織された地域協議会等による将来ビジョ

ンの策定と計画実施の仕組みづくり

・地域・団体・グループを対象とした「夢企画」の募集と審査会での優良事業の採択と予算化

・国や県、大企業からの情報の仲介、伝達、コーディネイトできる拠点・組織の整備  
・長門市の子どもたちが、先人たちのすばらしい文化に触れることができる仕組みづくり

### 三隅地域審議会

市民感情と市民の課題

◎市民が主体性を持ち、地域の課題に取り組んで行くという意識改革  
・さらなる社会教育の推進

### 行政の姿勢

◎行政管理職が先んじて現場の職員の声・アイデアをいかに汲み取り、盛り上げていくかという「モチベーター」、そして部署を越えた取り組みへの「コーディネーター」としての意識とスキルを、日常的に高めること。  
・行政の「本気度」をメッセージとして発信すること。

市民協働の実現に向けて

◎各種団体・組織・ネットワーク等のきめ細かい情報を集約・支援する部署の設置

・公民館を拠点とし、情報の集約や支援といった市民団体と行政各部署をコーディネートする

◎ルール作りや事業検証システムの構築

・(仮)長門市市民協働条例、(仮)市民協働助成交付金支給条例等のルール作りや、事業検証システムの構築  
◎市民の具体的な声を聞くこと。具体的な課題を見つけること

・自治会と行政の定期的な対話の場を設定する  
・自治会の現況把握・情報交換・協力体制の構築等を共に模索する

・行政と市民が自治会組織の再整備

### 日置地域審議会

周辺地域の過疎化現象

◎地域協働体の組織づくりと支援  
・地域におけるサービス提供の核となる

・「住民が主体」となる社会づくりの礎とする

・企業、各種団体、個人から市民協働の趣旨に賛同を求めて組織する

◎市民協働を担う人材育成と条例制定

・市民協働を担うリーダー的人材の発掘・育成  
・条例制定で市民協働を推進する姿勢や施策を明確にする。

### 市民協働のまちづくりの推進

◎行政施設を活用し、情報の提供・発信の拠点づくり  
◎地域資源を生かした有効利用  
・千畳敷高原一帯、草添山、掛淵川流域の整備を図る

・ふれあい運動会、汗汗フェスタ in 千畳敷、ふるさと祭りなどの既存イベントの活性化

### 第1次産業の活性化

◎地域の特性を生かした体験型農業で若者・消費者との交流を盛んにする

### 少子高齢化対策

・高齢者のライフラインの確保  
・古市地区の空き地、空き店舗の活用  
・子供を地域全体で見守り、育む体制づくり

### 油谷地域審議会

人口減少による影響と高齢化社

### 会の到来

◎高齢者を地域で支えあう体制づくり

・高齢者への声かけやサロン活動による社会参加の充実

### 地域コミュニケーションの復活

◎地域の一体感や他の活動団体の連携を図るイベントの開催  
・空き店舗や広場を活用した買物弱者支援の朝市、よろずやの開催  
・企業・商店または農業法人等をまきこんだ既存イベントの再構築

### 地域外とのネットワークの必要性

◎市民協働団体の広域的な取り組み体制の確立  
・市内外の団体と交流・連携を推進し、大浦、大浜海岸清掃

の参加者の拡大強化

・他地域の人達との交流による学びあいと意識改革

### 市民協働活動拠点の整備

◎市民協働支援体制の場づくり  
・第1次産業を活かした農業・漁業体験ツアーなどの交流型ツーリズムの推進  
・市民から地域の課題の解決を図る企画事業の提案募集

・楊貴妃伝説、油谷湾等の各観光地を連携・活用した観光マップ・観光ルートの作成、開発

・廃校施設を利用した市民活動サポートセンターの設置  
・活動事例のセミナー、研修会によるまちづくりリーダーの育成

### 市民協働講演会

とき 平成23年9月16日(金) 18時～

ところ 長門市中央公民館  
講師 辻駒健二氏  
川根振興協議会 会長  
広島県安芸高田市在住

演題 「みんなが主役のまちづくり」



略歴  
・1996年度 第35回農林水産祭「豊かなむらづくり部門」農林水産大臣賞  
・2006年度 立ち上がる農山漁村(農林水産省) 選定